

熊市歯発第 61 号
令和4年9月15日

会 員 各 位

熊本市歯科医師会
会長 宮 本 格 尚
(学術委員会扱い)

令和4年度 熊本市歯科医師会第2回学術講演会のご案内

「歯科・口腔領域の画像診断 ～パノラマX線画像を中心に～」

時下、益々ご清祥のこととお慶び申し上げます。

さて、この度、伊東歯科口腔病院画像診断部部長の瀬々良介先生をお招きし、下記日程にて講演会を行います。

画像診断は日常の臨床では毎日のように行っており、画像診断が治療の中心にあることは間違いないと思います。その割には画像診断のお話について、まとまって拝聴する機会は少ないように感じます。明日から少しでも自信をもって診断できるようになれば幸いです。

歯科医師だけでなく歯科衛生士にとっても興味深い内容だと思いますので、スタッフの皆様も是非ご一緒にご聴講ください。

参加の際はFAXにて申し込み後、当日は日歯研修カードをお持ちください。

なお、新型コロナウイルス感染再拡大の際には講演会延期としますが、その場合はFAXにてご連絡いたします。また、当日は必ずマスクをご持参下さい。

記

日 時 : 令和4年11月12日(土) 15:00～18:00

場 所 : 熊本県歯科医師会館 3階市会議室(予定)

講 師 : 伊東歯科口腔病院 画像診断部部長 瀬々良介先生

【抄録】

画像診断は治療を行う上で重要な分野の1つです。画像診断の原点は、あのレントゲン博士が1895年11月8日にエックス線を発見したのが始まりで、その数週間後にはドイツの歯科医師オットーが実験的に歯のエックス線写真を撮影しています。画期的なことですが、そのときの撮影時間はなんと25分もかかったそうです。現在では撮影時間はもとよりCT（Computed Tomography）やMRI（Magnetic Resonance Imaging）などの高性能な断層画像検査装置が開発され存在診断や質的診断あるいは機能診断など診断精度は飛躍的に向上しています。

一般臨床においての画像検査は、デンタルエックス線検査やパノラマエックス線検査が基本であり、症例によってはCTやMRIなどの検査を追加することで精度の高い画像診断を得るようにします。

そこで今回は、先生方が日常臨床で頻繁に撮影し診断するパノラマエックス線画像に描出される顎骨や上顎洞、顎関節部などの様々な病変や偶然描出された異常像などをCTやMRIなどの画像も提示しながらパノラマエックス線画像の読影法について解説します。

【講師略歴】

略歴

昭和62年 福岡歯科大学歯科放射線学講座入局

平成23年 福岡歯科大学退職

平成23年 株式会社 歯科・口腔画像遠隔診断センター設立、代表取締役（現在に至る）

平成24年 伊東歯科口腔病院・画像診断部・部長（現在に至る）

平成30年 福岡歯科大学臨床准教授（現在に至る）

FAX申込書 申し込み締め切り日：令和4年11月7日（月）

熊本市歯科医師会事務局行（学術委員会）FAX：344－9778

歯科医院名 _____

会員氏名 _____ 歯科医師（ ）名、スタッフ（ ）名